

(第3種郵便物認可)

米田 雅子（慶應大特任教授）

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うといつ。

地方創生阻む縦割り行政

性化の施策があつたが、成績をあげたとは言い難い。政府に本部ができるといい。各省厅から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策」とそ



よねだ・まさる 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこそて日本を元気に」を出版。

本部の実行予算確保を

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省厅ごとの政策や制度が多く非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってもらいたい。

これまで多くの地域活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省厅をまたがる新しい発想の施策は、○○省△△課という所管がないため前に進まないことが大きな問題だ。

しかし、各省厅の施策の一覧表を作つても、地域の道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道を

の道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめの省厅と課が決まる。でも、すくんでしまいがちだ。

それでも、皆が進めるべきと考えても、各省各課の予算に頼つていい。各省各課の予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせていく。霞が関では、省厅の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容している。ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興厅は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼つていい。それでの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせていく。霞が関では、省厅の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容している。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興厅は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼つていい。それでの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせていく。霞が関では、省厅の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容している。

識者
評論



米田 雅子
慶應大特任教授

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくつてもらいたい。

これまでにも多くの地域活性化の施策があつたが、成果をあげてきたとは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のため

よねだ・まさ」 1956年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

地方創生 縦割り行政脱却必要

例えば、私は「既存の公共交通、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくろう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水

省、林道は林野庁と分かれているために、取りまとめの省庁と課が決まりず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。

の総合政策とその関連予算」をすることが多かつた。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の○○省△△課に割り振つていた。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、○○省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

も明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、○○省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

例えば、私は「既存の公共交通、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくろう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

震が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかつた。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合うことができるか

が、地方創生のエンジンとなるためには、本部 자체が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部 자체が、個別政策の省庁横断的調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

識者評論

第2次安倍改選内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の量産課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行つてきる。

地元の政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいた。地元が自由な発想で、主体的に地方創生を取り組めるよう、今までには実効性のある本部をつくつてもいい。

これまで多くの地域活性化の

「地方創生」の行方

慶應大特任教授 米田 雅子

の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいた。地元が自由な発想で、主体的に地方創生を取り組めるよう、今までには実効性のある本部をつくつてもいい。

これまで多くの地域活性化の

寄せ集め施策から脱却を

施策があつたが、成果をあげてきただとは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策も明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、○○省△△課という所管がないために前も役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、そのための総合政策とその関連予算とすることが多かった。本部に進まないことが大きな問題だ。

地元の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央には実行予算と実行部隊がな

く、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の○○省△△課に割り振っていた。しかし、各省庁の施策の一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全國一律の補助制度をつくり、それに地方が

道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつけないで、防災の命の道ネットワークをつくろう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、「これ」をつなぎ災害時の避難路をつくるといふ。これは予算をつけるといふ。この予算獲得競争は、最もコストがかかるといふ。この予算獲得競争は、

と課が決まりず、皆が進めるべきと考えても、すぐへてしまいがちだ。

まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるために、本部自体が実行予算を持ち、地方別の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断的調整を行つた上で、各省に仕事を割り振る

財政赤字の大きな要因によるところに、縦割りの弊害を生んでいる。もに、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合つてができるかが問われている。

よねだ・まさ」 56年山口県生まれ。お茶の水女子大学卒。専門は地方公共政策なり。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割り」について日本を元気に」を出版。

従つ方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみてみると、各省庁から関連する施策も明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、○○省△△課という所管がないために前も役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それが道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれ算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それらの予算の執行

体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それらの予算の執行

では所管課のルールに従つ必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせていく。

霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかつた。縦割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、

地方創生

識者



第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行なうという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、具体的に地方創生に取り組めるよう、今まで多くの地域活性化部をつくりつてもらいたい。

慶應大特任教授

米田 雅子

獲得したい独自予算

従来の○○省△△課に割り振っていた。
しかし、各官庁の施策の一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各官庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想

だ。平时には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれているために、取り洗い出して、これらをつなぎ合ふ害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁横断的調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の

よねだ・まさひ 1956年 ◇
山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。
内閣府地域活性化伝道師。近く
「縦割りを」えて日本を元気に
を出版。

の施策があつたが、成果をあげてきたとは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策とその関連予算」とすることが多かつた。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は

の施策は、○○省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくる」、「う」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も

まどぬの省庁と課が決まります。皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。
まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、

予算に頼っている。それそれの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせている。

識者評論

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行なうという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く非効率や不自由を生んでいた。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってもらいたい。これまで多くの地域活性化の施策があった

■ 地方創生

米田 雅子
慶應大特任教授



よねだ・まさこ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをじょえて日本を元気に」を出版。

が、成果をあげてきたとは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策」とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がない、審議は省庁横断的に進むものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。

しかし、各省庁の施策道をつないで、防災の命が大きな問題だ。い発想の施策は、〇〇省△△課という所管がないために前に進まないこと

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。しかし、それぞれの道路は国土交通省、農道は農水省、林道は林野庁と分かれている。

そのため、取りまとめの省庁と課が決まらず、皆が進めるべきと考えても、すくんでしまいがちだ。まち・ひと・しごと本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを

の一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律

の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経験をみて明らかだ。さらには省庁をまたがる新し

りやすい話だ。ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興厅は自らの実行予算を持つやうに、各省各課の予算にたず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の

動きを鈍らせている。霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことにはなかつた。縦割り行政の本質は予算獲得に因るところに、縦割りの弊害を生んでいた。財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでいた。財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割り

寄せ集め施策の脱却を

の道ネットワークをつくる」、「実行予算の原資にしては断の調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振りの体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興厅は自らの実行予算を持つやうに、各省各課の予算にたず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせている。霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことにはなかつた。縦割り行政の本質は予算獲得に因るところに、縦割りの弊害を生んでいた。財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割り

の道ネットワークをつくる」、「実行予算の原資にしては断の調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振りの体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興厅は自らの実行予算を持つやうに、各省各課の予算にたず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルールに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らせている。霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことにはなかつた。縦割り行政の本質は予算獲得に因るところに、縦割りの弊害を生んでいた。財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割り

56年山口県生まれ。
よねだ・まさこ
お茶の水女子大卒。
専門は地方公共政策
など。内閣府地域再生
性化伝道師。近く「貧
割りを」えて日本を
元気に」を出版。



米田雅子・慶應
大特任教授

地方創生

寄せ集め施策から脱却を

慶應大特任教授 米田雅子

活性化の施策があつたが、成果をあげたとは言い難い。政府に本部は設置されると、各省庁からが実行することができる。各省庁からが実行する施策と予算を審議するが、各省庁は実行するための総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省横断的に行うものの、その実施は従来の○○省△△課に割り振っていた。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それには地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過がない。それを明らかだ。さらには倉庫をまたがる新

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行つて、
地方の活性化を阻んでいたものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今までとは実効性のある本部をつくるつもりだ。

識者評論

い発想の施策は、○○省
△△課という所管がない
ために前に進まないこと
が大きな問題だ。

に「総合的な調整を行なう」とは許容しても、その組織に各省課の予算を引き渡すことにはなかつた。総割りことはなかつた。

行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな原因になるとともに、割りの弊害を生んでいる。資源を超えて、地方に向かふことができるが、問われてゐる。

地方活性化の取り組み

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくるべきだ。

これまで多くの地域活性化の施策があつたが、成果をあげてきたことは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策」とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の○○省△△課に割り振っていた。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、○○省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

例えば、私は「既存の公道、農道、林道や民間の道など、異なる種類の道をつけないで、防災の命の道ネットワークをつくるう」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も

縦割り型から脱却が必要

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくるべきだ。

これまで多くの地域活性化の施策があつたが、成果をあげてきたことは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策」とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は従来の○○省△△課に割り振っていた。

しかし、各省庁の施策の一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。さらには省庁をまたがる新しい発想の施策は、○○省△△課という所管がないために前に進まないことが大きな問題だ。

霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくることは許容しても、その組織の予算の執行では所管課のルートに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らしている。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興庁は自らの実行予算を持たず、各省各課の予算に頼っている。それぞれの予算の執行では所管課のルートに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らしている。

霞が関では、省庁の上に「総合的な調整を行う組織」をつくことは許容しても、その組織の予算の執行では所管課のルートに従う必要があり、これが被災地復興の動きを鈍らしている。

(第3種郵便物認可)

識者評論

地方創生

慶應大特任教授 米田 雅子

施策から脱却を

あげてきたとは言い難い。政
府に本部ができると、各省庁
から関連する施策と予算を寄
せ集め、「地方活性化のため
の総合政策とその関連予算」
とすることが多かった。本部
自体には実行予算と実行部隊
がなく、審議は省庁横断的に
行うものの、その実施は從来
の○○省△△課に割り振って
いた。

しかし、各省庁の施策の一
覧表を作つても、地域の創意
工夫は喚起されない。各省庁
は、地方の活性化は望むな
まち・ひ・し

クをつくろう」とい
している。公道だけ
存の民間の道も洗い
これらをつなぎ災害
路を最小のコストで
いう、分かりやす
平時には森林整備
全にも役立つとして
や高知県が検討を
る。しかし、それな
は国土交通省、農
省、林道は林野庁と
いるために、取りま
るべきと考えても、
しまいかだ。

断型の施策を前に進める体制が必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部自体が、個別政策の省庁

施策から脱却を

横断的調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなんに、東日本大震災のクをつくる」という提唱をしている。公道だけでなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくると、いう、分かりやすい話だ。

これが被災地復興の動きを鈍らせていく。

施策から脱却をあげてきたとは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策とその関連予算」 자체には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うものの、その実施は從来の○○省△△課に割り振つていた。

しかし、各省庁の施策の一省、林道は林野庁と分かれて覽表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁は、本当に、取りまとめの省割り行政の本質は予算獲得による。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでいる。省益を超えて、地方に向き合うことができるかが、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が実行も明らかだ。さらには省庁を

横断的調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

讀者評論

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと・創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重量課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行うという。

地方の活性化を阻んでいい。政府に本部ができると、ものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁」との

結果をあげてきたとは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活

慶應大特任教授

米田雅子

よねだ・まさこ 56年柳井市生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割りをこえて日本を元気に」を出版。

政策や制度が多くの非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくつてもらいたい。

これまで多くの地域活性化の施策があつたが、成り立つ。これまで多くの地域活性化の施策があつたが、成

性化のための総合政策とその関連予算」とすることが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行うもの、その実施は従来の○○省△△課に割り振つてい

た。しかし、各省庁の施策のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。

しかし、それぞれの道

省益超え実行予算を

地方創生

一覧表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従う方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経過をみても明らかだ。

まち・ひと・しごと・創生本部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部自体が△△課という所管がないたために前に進まないことが大きな問題だ。

新しい発想の施策は、○○省なるためには、本部自体が実行予算を持ち、地方発の省庁横断型の施策を前に進める体制が必要である。各道、農道、林道や民間の道それぞの重複や無駄を精査

など、異なる種類の道をつないで、防災の命の道ネットワークをつくる」という提唱をしている。公道だけではなく既存の民間の道も洗い出して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かりやすい話だ。

平時には森林整備や国土保全にも役立つとして、岐阜県や高知県が検討を始めている。

しかし、それぞれの道

小エネ調認可法人化異論目立つ

国は原燃支援強化を

だ

(伴英幸原子力資料

情報室共同代表)

、日

本の再処理は日本原子力

協定で例外的に認められ

ており、国際的な視点に

留意が必要だ

(森本敏

元防衛相)

などと賛否が

分かれた。

低レベル廃棄物

搬出

され

た。

遅れで日本原燃の「低レ

ベル放射性廃棄物埋設

センター」(青森県六ヶ

所村)に向けて専用船で

搬出した。到着は18日の

廃棄物を入れてモルタル

で固めたドラム缶表面の

汚染密度を測定する作業

北陸電は7月に搬出す

予定だったが、プラス

にミスがあり、再測定し

た。北陸電は再測定の結

果を「汚染密度は基準値

を

超えていた

が

向こうで

できるかが

問われている。

福

國

町村

難し

象と

は福

直接

は福

難し

象と

は福

第2次安倍改造内閣は地方創生のために「まち・ひと・しごと・創生本部」を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行なっていく。

- ○ ○

地方創生の課題

慶應大特任教授

米田 雅子氏

よねだ・まさか」 56年
山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策論。内閣府地域活性化伝道師。近く「総割りをしきて日本を元気」を出版。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、非効率や不自由を生んでいる。地方が自由な癡想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくるつもりだ。

これまで多く地域活性化のための総合政策として、性化の施策があつたが、成の関連予算」とすることが多い。政府に本部ができるといい。各省庁から関連する施策と多かつた。本部自体には実行予算と実行部隊がなく、審議は省庁横断的に行なうものである。予算を寄せ集め、「地方活性化の、その実施は従来の○

省庁縦割り繰り返すな

い。や不自由を生じてゐる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくりつもりいた。これまでも多くの地域活性化のための総合政策とそれを実現するための関連予算」とする」ことが多かった。本部自身には新しい政策で本部ができるといふべきな問題だ。

各管轄から関連する施策と審議は管轄的に行うも、例えは、私は「既存の公共交通分かれていたために、取りまとめの管轄と課が決まり

予算を寄せ集め、「地方活の、その実施は從来〇道農道、林道や民間の道は農水省、林道は林野庁と

省の施策を集めた時に、それぞれの重複や無駄を精査して予算をしぼり出し、それを実行予算の原資にしてはどうか。つまり、本部 자체が、個別政策の省横断の調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災

も、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかつた。総割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、縦割りの弊害を生んでい る。省益を超えて、地方に向き合うことができるのが問われている。

△△課に割り振つてい
た。△△課に割り振つてい
た。△△課に割り振つてい
た。
しかし、各省庁の施策の一覽表を作つても、地域の創意工夫は喚起されない。
各省庁が全国一律の補助制度をつくり、それに地方が従つ方式では、地方の活性化は望めない。それは過去の経験をみても明らかだ。
平時には森林整備や国土保全などを立ち上げて、かかる本筋が決まり、各
省庁横断型の施策を前に進み、「総合的な調整を行つ組織」をつらうことは、必ずしも、

首 手 三

地方創生のために「まちひと・しごと創生本部を立ち上げ、石破茂氏が担当大臣に就任した。内閣の最重要課題として、人口減少対策や地域活性化にこれまでとは次元の異なる取り組みを行う」という。

地方の活性化を阻んでいるものに縦割り行政の弊害がある。中央の省庁ごとの政策や制度が多く、その非効率や不自由を牛んでいる。地方が自由な発想で、主体的に地方創生に取り組めるよう、今度こそは実効性のある本部をつくってもらいたい。

これまで多くの地域活性化の施策があつたことが、成果をあげてきたことは言い難い。政府に本部ができると、各省庁から関連する施策と予算を寄せ集め、「地方活性化のための総合政策」とその「関連予算」とする」ことが多かった。本部自体には実行予算と実行部隊がない、審議は省局横断的に進むものの、その実施は従来の〇〇省△△課に割り振っていた。

識者評論 地方創生

米田 雅子(慶應大特任教授)



解説評

よねだ・まさる 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化伝道師。近く「縦割り」として日本を元気にして出版。

部自体が、個別政策の省庁横断の調整を行つたうえで、各省に仕事を割り振る体制を提案した

よねだ・まさじ 56年山口県生まれ。お茶の水女子大卒。専門は地方公共政策など。内閣府地域活性化専任師。近く「縦割り」をえて日本を元気に「」を出版。

しかし、各省庁の施策、りやすい話だ。

域の一覧表を作つても、地平時には森林整備や国

域の創意工夫は喰起されない。各省庁が全國一律の補助制度をつくり、そ討を始めている。しかし、に頼つて、岐阜県や高知県が検持たず、各省各課の予算

うえで、各省に仕事を割り振る体制を提案したい。

ちなみに、東日本大震災の復興事業でも、復興

は自らの実行予算を

道は林野庁と分かれていがあり、これが被災地復興の動きを鈍らせていく。

には省庁をまたがる新し省庁と課が決まらず、皆る。

寄せ集め施策 脱却を

い発想の施策は、○○省が進めるべきと考えて△△課といつ所管がないもしくはしまいがちために前に進まないとだ。大きな問題だ。 まあ・ひと・じいと本例え、私は「既存の部が、地方創生のエンジンとなるためには、本部の道など、異なる種類の自体が実行予算を持ち、道をつないで、防災の命の道ネットワークをつく施策を前に進める体制がう」という提唱をして必要である。各省の施策を集めた時に、それぞれの民間の道も洗い出しの重複や無駄を精査し、存在の民間の道も洗い出しの重複や無駄を精査して、これらをつなぎ災害時の避難路を最小のコストでつくるという、分かれてはどうか。つまり、本

露が関では、省庁の上に「総合的な調整を行なう組織」をつくることは許容しても、その組織に各省各課の予算を引き渡すことはなかつた。総割り行政の本質は予算獲得にある。この予算獲得競争は、財政赤字の大きな要因になるとともに、総割りの弊害を生んでいる。省益を超えて予算をしぼり出し、そこで、地方に向き合ひのひとれを実行予算の原資にしができるかが問われてい